

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 持続する町、女川を目指して	これからの女川、10年、20年、30年と持続する町づくりを伺います。
	(1) 全国の65歳以上割合は令和4年1月1日現在で28.41%、本町の65歳以上割合は同年3月31日現在の39.65%から10月31日現在で39.46%となっており、そのうち後期高齢者は1351人22.4%から1373人22.8%となっています。
	14歳以下割合は全国が12.3%、本町が9.05%から9.08%となっており、本町の20～24歳は336人から335人、25～29歳は285人から296人、30～34歳は288人から300人、このように20～34歳人口が横ばい、微増しているのは外国人技能実習生ではないでしょうか。
	実情と実質を踏まえた上で、今後の人口推移と目指すべき人口、対策を伺います。
	(2) 漁業の町女川を訴える宣伝力が足りないように思います。
	それに加えて、若い世代の地域交流、江島、出島、北浦、五部浦、針浜の交流、さらには漁業生産者、加工業者、商業者、消費者の交流の場がありません。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	異業種の交流から生まれる化学反応のようなものがあるのではないかとと思いますが、そのような取組はできませんか。 (3) 10月27、28日、原発立地自治体の議員が集まるサミットがあり、私は「脱炭素社会における立地自治体の在り方」の分科会に参加しました。 「脱炭素のために」、「財政が苦しいから早く再稼働を」との声が多く、原発ができてますます貧しくなっている、原発に依存し本来の産業を疎かにしているのではとさえ感じました。 女川がそのようなことにならないためにも、原発に依存しない町づくり、地域で循環する構造、仕組みに取り組むべきです。 町長の考えを伺います。 (質問の相手：町長・担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 使用済み切手で国際 支援を	近年、郵便の数が減り、切手を使うことも少なくなりました。
	しかし、使用済み切手を集め医療や飢餓に役立っている団体が数多くあります。使用済み切手が役に立つのかと思う人もいるでしょうが、切手収集家たちには日本の切手はデザインが良く、人気があります。使用済み切手は5000枚ほどで1800円位になるそうです。個人が集められる数はたかが知れていますが、役場などには昔ほどではないにせよ切手が集まるのではないのでしょうか。
	女川では、これまでフードドライブの箱を設置してきましたが、1月も行うそうです。
	河北のビッグバンの入口には、切手収集箱が置いてあります。
	役場受付の脇に切手収集箱を置いて「もったいない使用済み切手」で国際貢献してはどうですか。
	(質問の相手：町長・担当課長)